

2023年5月16日

学校関係者評価報告書

(2022年度)

群馬パース大学福祉専門学校
(学校関係者評価委員会)

※この報告書は、「自己評価報告書」に学校関係者評価委員会の評価を追記してまとめたものである。

目 次

I 学校の現状	2
II 評価の基本方針	7
III 重点目標	8
IV 評価項目の達成及び取組状況	12
(1) 教育理念・目標	12
(2) 学校運営	13
(3) 教育活動	14
(4) 学修成果	16
(5) 学生支援	18
(6) 教育環境	19
(7) 学生の受入募集	20
(8) 財務	22
(9) 法令等の遵守	23
(10) 社会貢献・地域貢献	23
(11) 国際交流	25
資料 1	27
資料 2	28
資料 3	29

I 学校の現況 (2022年4月1日現在)

1 施設の概要

- (1) 名称 群馬パース大学福祉専門学校
- (2) 所在地 〒377-0008 群馬県渋川市渋川 1338-4
- (3) 設置者 名称 学校法人群馬パース大学
代表者 理事長 樋口 建介
所在地 群馬県渋川市渋川 1338-4
開設日 1992年4月1日
- (4) 教職員数 校長以下 20人
- (5) 開設学科 3学科
- ・ 介護福祉学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 保育学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 介護福祉専攻科 1年制 定員 30人
- (6) 在籍学生数(2022年4月1日現在)

	1年	2年	合計
介護福祉学科	44	43	87
保育学科	16	26	42
介護福祉専攻科	5		5
合計	65	69	134

- (7) 沿革
- ・ 1992年3月 ほたか保健福祉専門学校設置認可(群馬県)
 - ・ 2007年4月 群馬パース福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2010年4月 キャンパスを群馬県吾妻郡高山村に移転
 - ・ 2014年4月 群馬パース大学福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2017年4月 キャンパスを群馬県渋川市渋川に移転

2 建学の精神

Pazは、平和を意味するポルトガル語、パース(Paz)に由来する。

また、同時にPazにはこの3文字を頭文字とする「Pessoa(個性～個性の尊厳と自己の実現)」「Assistencia(互助～多様な人々の共存と協調)」「Zelo(熱意～知の創造)」の意味が与えられている。

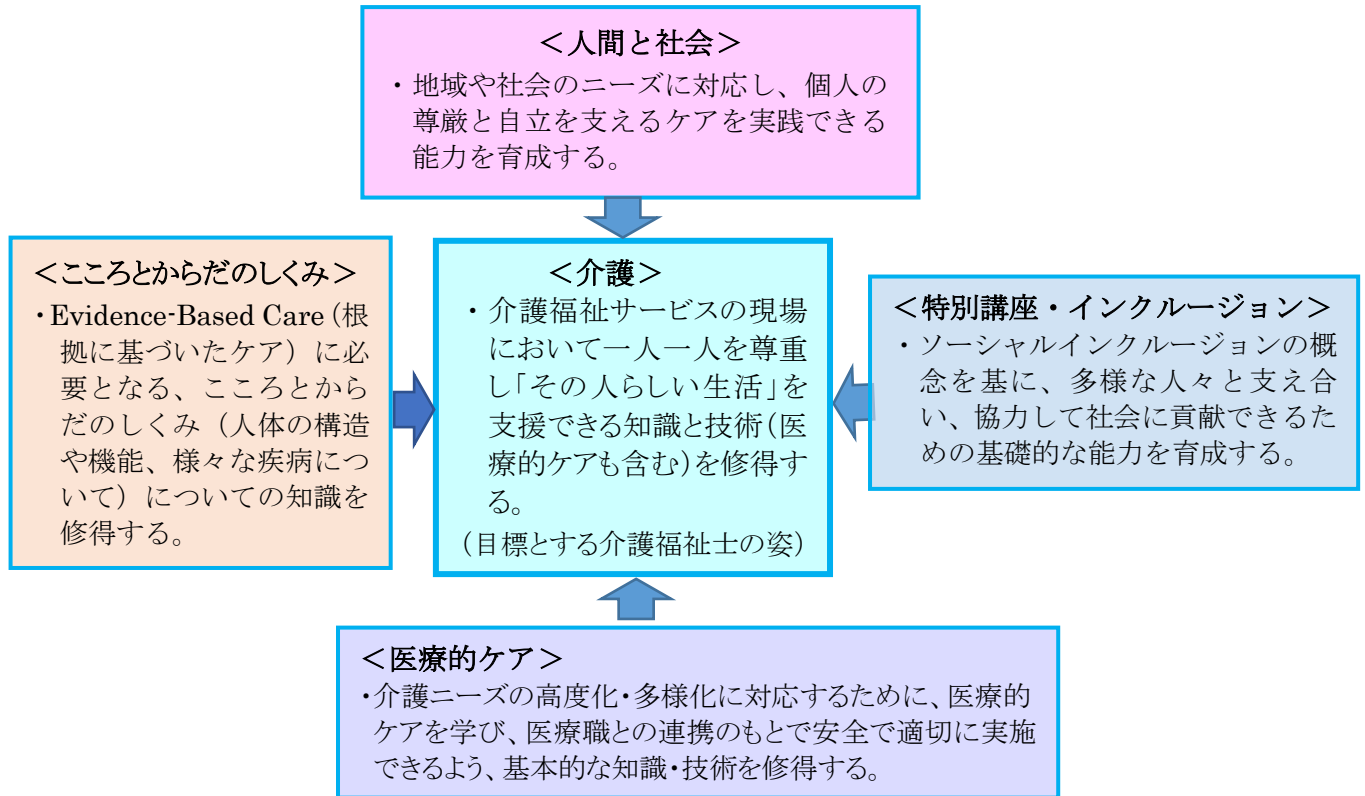
3 教育理念

「人間愛と人間尊重」を基盤にした豊かな人間性を養い、「生命への尊厳」に支えられた介護、保育の専門的知識や技能を身に付け、広く社会に貢献できる人材を育成する。

4 教育目標

【介護福祉学科・専攻科】

- 介護福祉学科のカリキュラムは5つの分野から成り立ちそれぞれ教育目標を定めている。5つの分野が独立しているのではなく、介護の分野が軸となり、他の4つの分野が補っている。



【保育学科】

- 子どもの思いに寄り添う感性を養い 個々の子どもの育ちを支える知識や技能を修得する。
- 一人一人の子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健の基本的な知識の修得と実践力を養う。
- 地域社会や家庭とよりよい関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。
- コミュニケーション力を高め協働する力を養う。

5 教育方針

各学科3つのポリシーで示す。

【介護福祉学科・専攻科】

《アドミッションポリシー》

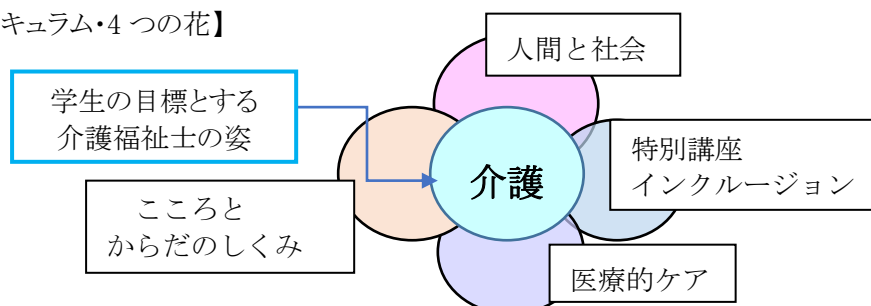
- 介護に関心を持ち、思いやりの心を持って相手を尊重することができる人
- 社会における介護の必要性を理解し、社会貢献・奉仕の心を持つ人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー（学生の目標とする介護福祉士の姿）達成に向けて

(1)「介護」のねらいは、カリキュラムの4つの分野「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」「特別講座・インクルージョン」と連携し知識や技術を修得することで達成できる。各分野の教員が連携して指導に当たる。

【カリキュラム・4つの花】



(2)実習経験を積み重ねることで実践力を身に付けていけるように段階を追って目標を定め指導する。

* 介護福祉学科 1年生カリキュラムマップ 資料1 参照

* 介護福祉専攻科 カリキュラムマップ 資料2 参照

《ディプロマポリシー》

- 高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できる知識と技術を身に付けている。
- 介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

【保育学科】

《アドミッションポリシー》

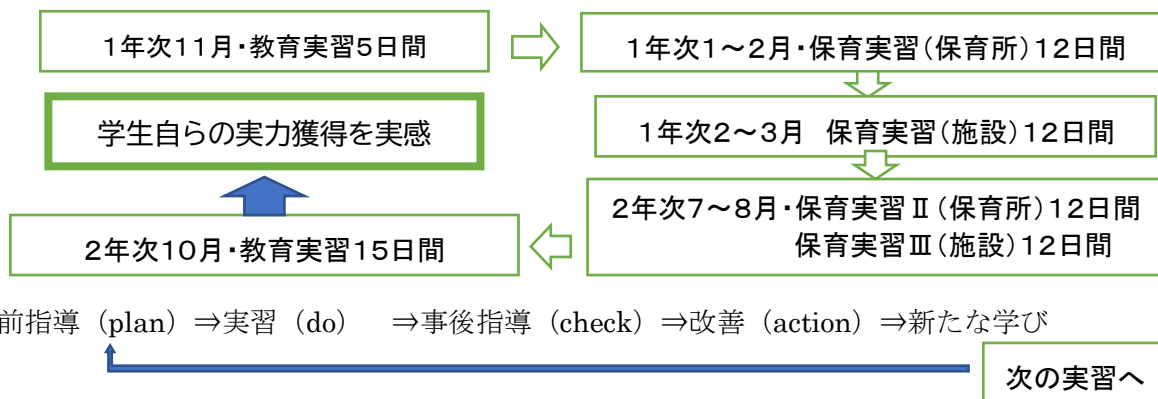
- 保育や幼児教育に関心を持ち、深い愛情を持って、子どもとコミュニケーションがとれる人
- 子どもの命を預かる責任感を持って、常に注意深く子どもを見られる人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー達成に向けて

(1) 教育実習・保育実習を経てアクティブラーニング型授業での学習展開（『 』は、科目名）

- ① 2年間で 5 回の実習を経て段階を追って学びが深まり実力が付くように、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をする。
- ② 実習においては、全ての学習の学びが関連しているが、特に、『保育実習指導』を基本に『保育実践演習』『保育キャリアデザイン』『特別講座』とも連携して実習の事前・事後指導を行う。
- ③ 実習ごとに PDCA サイクルで学ぶ。



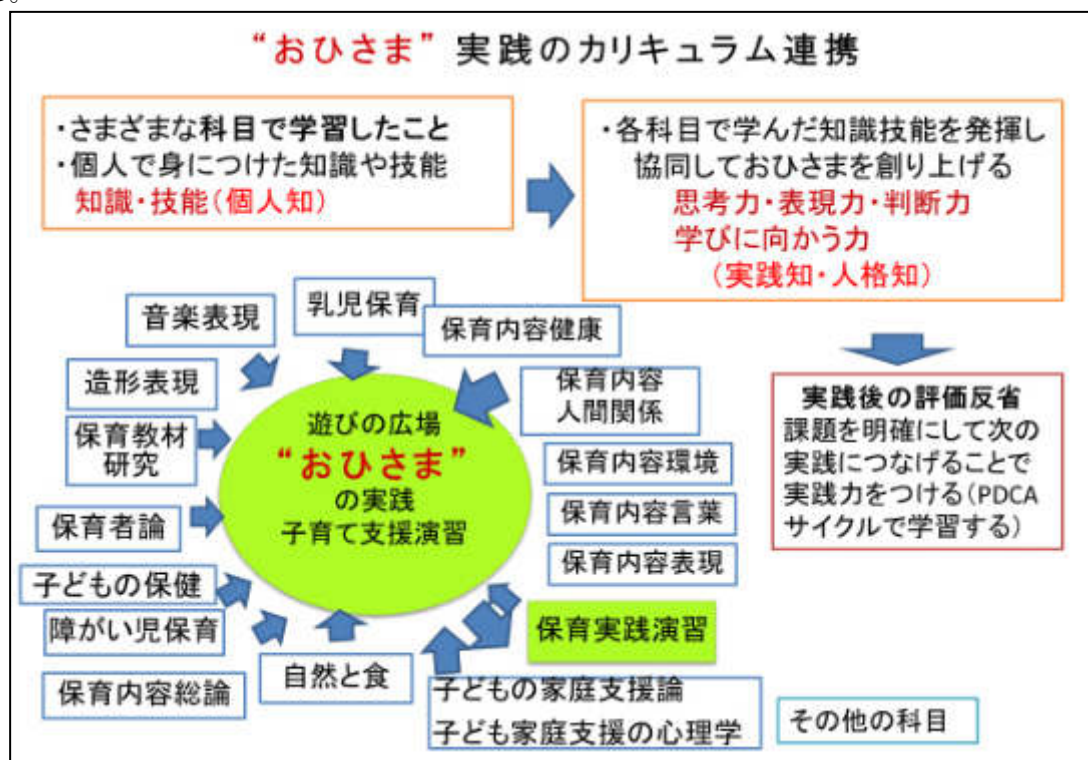
- ④ 実習前後の指導を全体指導と巡回指導担当教員による個別指導を組み合わせ、個々の学生の能力に応じた指導をする。
 ＊保育学科カリキュラムマップ 資料3 参照

(2) 『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』で取り組む「おひさま」を中心とした学習展開

併設する渋川市子育て支援総合センターと連携して、子育て支援事業・遊びの広場「おひさま」(以下、「おひさま」)を実践する中で、子どもとの関わり方や、読み聞かせ、手遊び、歌、劇の実演方法などの学習や、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助について学ぶと共に、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。そのため、『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』と連携した学習展開をすることを基本に、その他の科目での学習とそこで身に付けた知識や技能を發揮し協働して「おひさま」を創り上げる体験をする。

学生の習熟度に応じて学習が進められるように、『保育実践演習』と連携し、学生個人がPDCAサイクルで学び、実践力修得を確実なものにしていく。

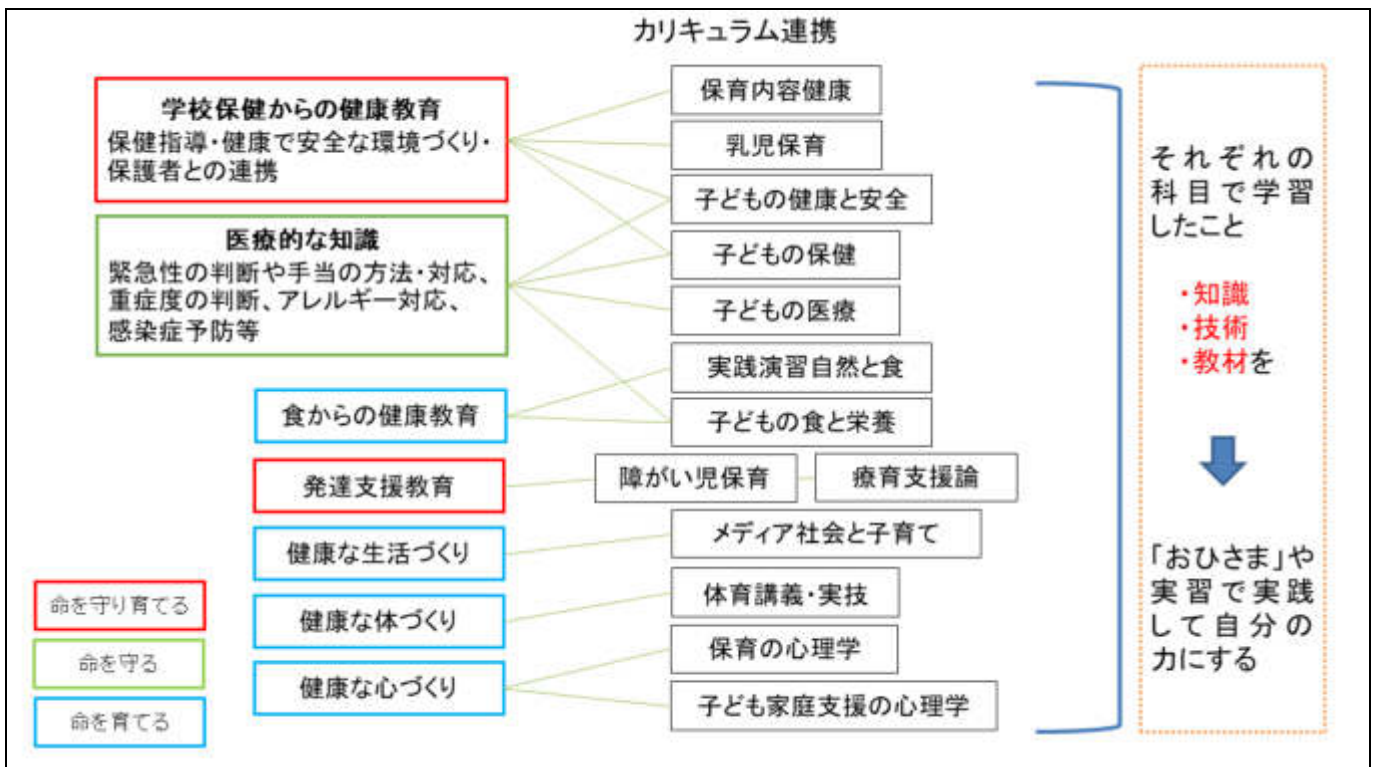
そこで、下図のようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の向上が実感できるような学習展開にする。



(3) 医療的な知識と学校保健活動の専門的な知識を学ぶためのカリキュラム連携

「子どもの命を守り育てる保育者を養成する」という目標のもとに、「命を守る」視点と「命を育てる」視点で、下図に示す科目の中で授業内容の検討と連携を試み、目標達成に向けての学習展開を考察していく。

なお、学生の実践の場としては、保育・教育実習、「おひさま」で、保健指導の実践(自作の教材・絵本や紙芝居などを使つての健康指導・食育)、身体諸機能の発達促進や安全感覚を養う運動遊びなどの実践をする。



《ディプロマポリシー》

- 子どもの生きる力を育むために、さまざまな子どもの思いに慈しみをもち寄り添い、個々の育ちを支える知識や技能を身に付けている。
- 一人一人の子どもの命を尊び、守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有している。
- 地域社会や家庭とより良い関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

II 評価の基本方針

群馬パース大学福祉専門学校は、「人間愛と人間尊重」「生命への尊厳」を基盤に専門的な知識・技能を修得し、介護や保育の現場で活躍できる福祉・保育のスペシャリストの養成を目指している。

また、自らの教育活動や学校運営について、自己点検評価を実施し情報公開すると共に、学校関係者評価委員の協力を得て教育活動のさらなる充実を目指している。

1 対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日

2 実施方法

(1) 実施組織 教育活動推進担当（自己点検評価委員会）

○総括 神野 校長

○担当者 木村(校長補佐)、都丸(副校長)、古川(介護福祉学科教務主任)、深澤(介護福祉学科教員)、千田(介護福祉専攻科教務主任)、塩澤(保育学科教務主任)、井上(保育学科教員)、谷畑(事務主任)、廣橋(事務)

(2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する。

(3) 評価方法

教育活動推進担当者会議を開催し、昨年度からの課題を引き継ぎ、各学科・事務局・各分掌担当が自己点検評価を実施し取りまとめる。

3 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4 項目に対する評価

(1) 4段階で評価する。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 各評価項目で、特記すべき取り組み状況や課題・対策などを記載する。

Ⅲ 重点目標

【介護福祉学科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(資料1 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

『介護過程』や『生活支援技術演習』の学習を通じて、利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援を学んでいる。2年次の介護実習では担当利用者を持ち、その方の生活課題は何か、必要な支援は何かという個別ケアと自立支援の観点から実習を展開している。

《成果と課題》

本年度も新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の影響のため、学内演習での振替えが生じた。

COVID-19の影響で、実習経験が少なくなっていることから、介護過程の習得が課題となっていた。少しでも習得度を上げるために、両学年とも講義を教員2人体制で行った。学生からの質問などにすぐに対応でき、講義内容の理解に繋げることができた。

今後も「その人らしさ＝個性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中でより具体的な事例を通じて個別ケアを理解しやすい授業を展開する必要がある。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は50時間である。本校はその3倍以上の165時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリキュラムになっている。

《成果と課題》

本年度は、COVID-19の影響がある中でも、演習時間は通常通り設けることができた。また、医療的ケア実習について本校で定めている基準を満たした実地研修希望者17名(年度末在籍2年生42名中)が修了することができた。さらに、昨年度COVID-19の影響のため、実地研修に参加できなかった卒業生の中で、実地研修希望者7名も修了することができた。

【介護福祉専攻科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(カリキュラムマップ 資料2 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

保育士資格取得時に学んだ内容や経験、及び介護福祉専攻科として学んだ介護に関わる知識も統合し、利用者の個別性に応じた介護を展開できるよう指導している。

《成果と課題》

本年度も、COVID-19の影響があり、感染予防の観点から施設実習が途中で中止、または受け入れることができないと判断された際は学内演習に切り替えた。学生の体調確認や、他の学生への感染防止の観点から、学内への登校も難しいと判断した際には、オンラインと課題で対応することで、必要時間数を確保することができた。「その人らしさ＝個性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中で事例や、実際の両親や教員、友人などをモデルとし、保育学科での学びや経験を、介護の事例に置き換えることなどを通じて個別ケアを理解できるよう授業を展開した。実際の介護現場を体験した経験がないことからイメージしにくい様子もあるが、これについては保育実習や保育園児に置き換え説明することや、映像などを活用することで、聴くだけでなく、観ることに重点を置くことで補完できた様子であった。映像や実習での体験、さらには保育学科での経験も自身の経験として連続的に考えることができるよう指導していく。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は50時間であるが、介護福祉専攻科は90時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリキュラムになっている。

《成果と課題》

演習時間など、少人数であることから気を抜くことなく学ぶことができている。医療的ケア実習については2月に実施し、成績や技術習得について規定のラインをクリアした者は実地研修に行くことができた。

【保育学科重点目標】

(1)子どもの生きる力を育むために、子どもの思いに寄り添い育ちを支える力を持つ保育者を養成する。

(2)子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有する保育者を養成する。

2年間という限られた修学期限の中で、上記のような重点目標を効果的に身に付けることができるようにするために、カリキュラムを検討し教員と相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようにする。

そこで、昨年に引き続き今年度においても目標達成に向けて次のような方策で取り組む。

1 重点目標(1)について

① 教育実習・保育実習の学習展開の工夫

《現状》

- a 講義・演習・実習の学習サイクルで実践力を身に付けるために、2年間・5回の教育・保育実習を有効にするカリキュラム連携や各教員の指導内容を工夫すると共に、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をしている。
- b 実習においては、今年度も COVID-19 により実習の実施に影響を受け、実習受け入れの中止や期間の短縮・変更などの対応に迫られた。特に第7波の真ただ中で行われた保育実習Ⅱ・Ⅲでの影響が大きかったが、実習先と連携を密に取りながら実習の継続や中止の判断を行った。今年度も全員一斉に現場での実習中止とはせず、受け入れが可能な限り、現場で実習をするという方針を取った。受け入れ中止や短縮の学生については、学校にて代替授業(学内実習)を行うことで対応した。昨年度は手探りで行った感のある学内実習だったが、今年度はそれを踏まえ、学生が実習に代わる学びにつながるよう内容を再検討し、学科の全教員で対応して実施した。また、昨年度の冬に、保育実習Ⅰ(保育所)の学内実習対象者だった学生については、現場での経験の不足を補うために、感染状況が治まってきた6月に、渋川市の保育所へ依頼して体験学習(ボランティア)の機会を数日設けた。
- c 多くの授業で実習を見据えた教材作成や指導が行われ、作成した教材を実習時に活用して実践を行ってこることを課題として指示した。

《成果》

- a 学内実習では、子どもや利用者と直接関わることはできないものの、学校において少人数でじっくりと演習や課題に取り組むことにより、個々の学生の知識理解や保育技術向上につながった側面はある。特に指導案の作成や教材研究、模擬保育でその成果が高く、学生自身もその成果を実感でき自信につながった。
- b 授業で作成した教材を積極的に活用し、学生全員が実習先で保育実践することができた。また、実習での経験やエピソードを実習後の授業で振り返り、学びにつなげる場面も多く見られた。そのことにより保育教材を活用することの大切さを学生は実感し、さらなる改善や工夫する姿につながった。これらのことは、授業と実習の連携が促進された証といえる。
- c 2年生の保育実習後、『実習指導』の授業の一環として実習の成果を報告書とポスターにまとめている。実習報告会では、それぞれがプレゼンテーションの仕方を工夫し、充実した発表を行うことができた。特に数々の保育教材が展示され、その工夫や現場での活用の仕方と子どもの反応を2年生が1年生に、自身の体験を踏まえて生き生きと伝える姿が見られた。『実習指導』で取り組む1・2年合同の報告会は共に学び合う貴重な学習内容である。

《課題》

- a 昨年に引き続き COVID-19 の影響により、実習受け入れがかなわない場合の対応が課題である。現場で実習できた学生と学内実習の学生との学びや体験の差について、どのように考えて補っていくか、引き続き検討していく必要がある。初めから学内実習が決まっている学生と途中から学内実習に合流する学生が混在する状況下で、その日のプログラムをどう展開していくかに難しさがあつた。また、学生本人が感染したケース

では、学内実習の日程そのものをずらす必要が生じ、全ての学生が学内実習を終えるまでの期間の長期化、複雑化を招いた。学内実習については今後も内容、実施期間も含めてさらなる検討が必要である。

② 『保育・子育て支援演習』を中心とした学習展開

《現状》

保育学科では、渋川市(子育て支援総合センター)と連携し、遊びの広場「おひさま」を開設している。子育て支援の多様なニーズに対応できる保育者を養成することを目的に、『保育・子育て支援演習』で取り組み、他の科目では主に『保育実践演習』との連携で学習展開し4年が経過した。今年度もCOVID-19のため引き続き時間を短縮しての開催となったが、毎回25人前後の子どもが参加している。

学生にとって遊びの広場「おひさま」は、子どもが楽しんで過ごせる遊び場や劇の実演などを通して、子どもとの関わり方や親子で一緒に楽しめる環境の構成や教材づくりを学ぶ場となっている。この学習展開は、今保育の現場で最も必要な子ども理解と評価、育ちを繋ぐ保育実践についての実践的な学びとなっているため、『保育・子育て支援演習』だけではなく『保育実践演習』との連携で、学生個人がPDCAサイクルで学び、実践力を確かなものにしており、今年度もカリキュラムポリシーで示すようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の修得を実感できるような学習展開にしている。

《成果》

- a 今年度遊びの広場「おひさま」は、5回の開催予定で、第1～4回目については親子参加のもと開催することができたが、学生の学びの集大成である5回目の実践は、COVID-19の状況を考慮し、学生と協議の結果、親子不在で行った。その実践は録画し、学生のメッセージを添えて対象親子に配信した。従来、参加者の募集は年度初めに行い、全5回参加が基本であったが、COVID-19禍において全ての回に参加する親子は少なく、単発での参加者を受け入れた。COVID-19禍による行動制限のもとで、近くで安心して遊べる場として親子の積極的な参加が見られた。
- b 収録したビデオを鑑賞することで客観的に振り返り、これまで以上に「伝わる表現・伝わる言葉」について考え工夫し実践した。特にマスクを身に付けた状態での表現の仕方についての気付きや工夫が見られた。
- c 様々な授業での学びを遊びや親子との関わりに活かそうとする学生の姿勢が見受けられた。
- d 遊びの広場「おひさま」を学生同士が協力して創り上げていく過程を「協働性を培う場」として、学生が自分を振り返りつつ、コミュニケーション力、計画立案と実践力、より良いものを創り上げていこうとする意欲等を修得できるような学習展開にした。グループ活動を通して相手のよいところを認め、自身も他者から認められることで自己肯定感が高まり、信頼関係が構築されグループディスカッションが活発になり、協力して取り組もうと努力する姿勢やより良い教材を作ろうとする意欲が見られるようになった。

《課題》

- a 次年度の遊びの広場「おひさま」の開催についても今年度同様、渋川市子育て支援総合センターと連携しての子育て支援事業を展開していく。次年度は学生の人数が少ないため、構成内容を再検討する必要がある。

2 重点目標(2)について

《現状》

2021年に医療的ケア児支援法が制定された。今後、医療的ケア児の保育所等での受け入れが広がり、専門的な医療の知識を持った保育者が求められる時代になっていくことが予想される。

そのため、本校では、群馬パース大学保健学科の専門教員や医療保育専門士の資格を有する教員の指導のもと、関連科目が連携し(カリキュラムポリシーを参照)小児医療の専門的な知識と保健指導が実践できる保育者養成に努めている。

《成果》

- a 遊びの広場「おひさま」の実践では必ず保健指導のプログラムを入れ、今年度は、虫歯予防のための歯磨き習慣や子どもにも分かる熱中症対策、風邪の予防や体温調節などの指導用教材を作成し実践した。そのことが学生同士の学び合いになり、保育現場での実践につなげる内容となった。
- b 『保育・教職実践演習』では 2020 年度より群馬大学附属幼稚園の養護教諭をゲストスピーカーに迎え、保健指導の実際、子どもが自らの健康生活を実践できるように様々な教材を使つての指導、子どもに伝わる話し方、緊急時やケガ発生時の保護者への対応などを学んでいる。その学びを通し、具体的な教材と指導計画についてイメージすることができた。
- c 例年同様、2 年生『療育支援論』で、群馬パース大学の理学療法士資格を有する教員や本校介護福祉学科の看護師資格を有する教員から、小児のリハビリテーション、医療的ケアについて学ぶことで、学生の療育支援への知識・関心を高めることができた。

《課題》

- a 従来の課題であった教員間の連携及びカリキュラム連携は、専任教員でのディスカッションや非常勤講師への働きかけにより深まり、医療的な知識や学校保健活動の専門性を高める教材の作成や活用ができるようになった。しかし、その意義について学生の理解が曖昧であるため、漠然と教材を作成し実践している様子もうかがえる。次年度は、その意義について明確にした上で実践できるように指導していきたい。

IV 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像は定められている (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 教育の理念、教育目標、教育方針(3つのポリシー)等については、ホームページに掲載し、校内だけではなく、本校に関心を持ってくださった方も含めた周知に努めた。
- b 年度初めのオリエンテーションや授業の中で、各教員が教育目標や教育方針(ポリシー)について取り上げ、学生に周知するように努めた。
- c 今年度は初めて PAZ 祭(文化祭)開催時に保護者面談(希望者)を実施し、その際に来校された保護者に学校の理念、目的等の説明を行った。

② 課題と改善方策

- a 学生やホームページを閲覧してくださった方、PAZ 祭で面談を行った方には周知が図れたと思われるが、保護者、特に留学生の家族に対しての周知についてはまだ課題が残っている。留学生を経由して保護者の方に周知できるようにする。
- b 学校の将来構想についての学生や保護者への周知は、課題として残っている。入学後のオリエンテーションなどを活用してその周知に努める。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・初めての試みとして、PAZ 祭(文化祭)開催時に保護者面談(希望者)を実施したとのこと。保護者に学校での子弟の様子等を伝えるだけでなく、そうした機会を通じて学校の理念、目標、教育方針等の周知にも努めていることは評価したい。引き続きその周知に努められたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	④	3	2	1	
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	

--	--	--	--	--	--	--

① 現状

a 毎年4月、「校務分掌」(いわゆる事務分担当表)の見直しを実施している。これにより、教職員それぞれの職務内容と責任を明確にし、全教職員が引き続き持てる力を十分に発揮・協力して学校運営に当たる体制の構築がなされている。

特に、全教職員が参加する教務委員会(毎月最終金曜日)では、教育に関わる事項だけではなく学校運営に関わる事項に関する報告・協議等が行われ、教職員の共通理解が図られている。

b 6月、学校のホームページを通じて2021年度「学校関係者評価結果」を公表し情報公開に努めた。

c 本年度も引き続きCOVID-19感染症対策の徹底に努め、学校行事等を安易に中止とせず、できること(何ができるのか)を考え実践する前向きな姿勢で学校運営に臨んだ。

なお、本年度は3年ぶりに学園祭(12月)を開催した。

② 課題と改善方策

a 運営方針に沿った事業計画の推進に努め、教職員が一丸となって学生募集の活動に取り組んでいるが、厳しい結果(特に、保育学科と介護福祉専攻科)であった。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・毎年、「校務分掌」(いわゆる役割分担当表)の見直しを行い、教職員それぞれの職務内容と責任を明確化していることは評価できるが、はっきり役割分担当ができないようなところで間隙を生じさせないように配慮し、「校務分掌」を基本としつつも俯瞰的に判断して取り組んでほしい。

- ・ホームページが刷新、リニューアルされている。新しい情報も掲載され、その内容も適宜更新されており、情報公開の観点からも大変好ましいことである。高く評価したい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターン	④	3	2	1	

シップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか					
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 看護、介護、保育、教育等の現場で活躍している人材やパース大学の教員を講師として招聘し、知識や技術等の修得に力を入れている。
- b 学生による授業評価(授業評価アンケート)を教員の授業改善により良く活かす方法を再検討し、昨年度から専任教員は反省評価の文書表記も併せて行っているが、今年度は非常勤講師にも依頼した。
- c 成績評価・単位認定については、学生便覧やシラバスにも示されており、各担当の成績処理については各学科でも話し合わせ適切に行われている。また、進級・卒業判定についても学生便覧やシラバスに示され、進級・卒業の判定会議が開かれ、適切に対応している。
- d 教員は、関連分野からの講師依頼を積極的に受ける、学外研修へ参加するなどスキルアップ向上に努めている。また、講師を招聘して職員の研修を実施し、教職員の資質向上に努めている。
- e 今年度は、校内で初めて研究紀要を作成した。
- f 今年度の本校の「介護福祉士国家試験」合格率は、96.3%(全国平均 84.3%)学科別では介護福祉学科 100%(24人受験で全員合格)、介護福祉専攻科 66.7%(3人受験で2人合格)の実績を残すことができた。

【介護福祉学科】

- a 実技の授業では、PAZ グループの連携強化の一環として、グループ内の介護職員の方が学生に実技指導を行った。学内での演習、学外での実習を通じて本校では、グループ内の病院や介護施設等との連携による「現場と密着した介護教育」、「即戦力教育」の実践に努めている。
- b 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、医療的ケアの実地研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- c 本校独自の取組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を約 3 倍上回る時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。

【介護福祉専攻科】

- a 少人数であることを前向きに捉え、学生の個性に合わせた個別指導や助言に努めている。
- b 国家試験対策として、国家試験対策講座を設定し、12月から個別指導に重点を置き、学力向上に努めた。

【保育学科】

- a 保育者としての実践力を付けるためのカリキュラムや教育方法の工夫については学科内で常に検討を重ね改善に努めている。
- b 保育実習・教育実習後、各実習先の実習評価が基準点に満たない学生については、実習担当教員が補完を行った。その内容は、指導案立案と実践(模擬保育)、実習日誌の記載、ビデオ視聴を通した子ども理解と援助、ピアノ実技演習弾き歌い等の課題を中心に特別学習計画を組み、資格取得に向け基準点に達するまで繰り返し指導している。
- c 『保育キャリアデザイン』『実習指導』の授業の一環として、現役の園長や保育者・施設職員及び卒業生をゲストスピーカーとして依頼し、将来保育者として必要なキャリア教育・実践的な職業教育について学習できるようにしている。
- d 保育現場との連携を大切に、本校の教員が近隣の園(主に教育実習園)の園内研修に継続参加し、そこでの研究成果を授業に活かす、実習の学習成果を現場に返すなど、現場との連携を深めつつ実践的な教育方法を追求している。
- e COVID-19が蔓延する以前は、渋川市子育て支援センターと連携し、地域の幼児及びその保護者を対象に授業実践を頻繁に行っていたが、この3年間、COVID-19の影響で制限され、授業での実践はできない状況であった。今年度は、『保育の英語』の授業実践としてハロウィーンパーティの開催、『保育・子育て支援演習』の一環としての「お話しのおもこもこ」による人形劇の鑑賞を地域の幼児及びその保護者と共に行うことができた。

② 課題と改善方策

- a 職員の研修については、次年度も校内での研修を計画的に実施すると共に、外部の研修についてアンテナを高くして参加できるものについて積極的に参加するよう促す。
- b 専任、非常勤共に、教員は本年度の授業評価の結果を生かし、授業改善に取り組むことが望まれる。

【介護福祉学科】

- a 現在、特別な課題等はない。

【介護福祉専攻科】

- a 本年度、介護福祉士国家試験までに学習が必要な科目を優先的に時間割に組み込み、影響の少ない科目を国家試験後に組み入れることで、昨年度に比べ無理のないスケジュールを組むことができた。

【保育学科】

- a 次年度は、さらに渋川市子育て支援センターと連携し、感染対策を取りながら授業実践及び交流の機会を増

やしていきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・開校以来初めて「研究紀要」を作成したとのこと。地道な研鑽を積んでこられた教員にとって日頃の研究成果を発表する場となることから高く評価したい。教員のさらなる資質向上を図るべく、引き続き次年度以降の意欲的な取り組みに期待したい。
- ・本年度の「介護福祉士国家試験」の合格率について、全国平均が 84.3%のところ、本校は 96.3%、学科別では介護福祉学科 100% (24 人受験で全員合格)、介護福祉専攻科 66.7% (3 人受験で 2 人合格)とのこと。非常に高く評価できる。引き続き国家試験対策等に尽力されたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

① 現状

- 2023年3月、介護福祉学科、保育学科及び介護福祉専攻科の卒業生については、就職を希望する学生は全員が就職をしている。就職率は、介護福祉学科及び介護福祉専攻科 100%、保育学科 95.5%である。
- 2022年度の退学・除籍者は、7人(介護福祉学科1年3人、2年1人、保育学科1年3人、2年生0人、介護福祉専攻科0人)であった。

参考:2021年度 4人(介護福祉学科1年2人、2年1人、保育学科1年0人、2年1人)

2020年度 9人(介護福祉学科1年5人、2年0人、保育学科1年3人、2年1人)

【介護福祉学科】

- 国家試験対策として模擬試験(学内・全国模試)を実施するなど、学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。(3)教育活動参照)
- 留学生への学習及び生活の支援を細やかに行った結果、退学率は少数を保っている。
- 卒業生支援として、昨年度 COVID-19の影響のため、実地研修に参加できなかった研修希望者8名も終了することができた。(Ⅲ重点目標参照)

【介護福祉専攻科】

- a 国家試験対策として、対策授業、個別指導を実施するなど学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。
- b 就職活動においては、学生自身がここで働くという強い意志を見出せる施設を見つけることに力を入れている。目標として12月中での就職内定を目標に掲げているが、就職することのみを目標とせず、時間がかかっても学生個人にあった施設へ就職できるよう支援している。

【保育学科】

- a 今年度の就職活動については、昨年度同様 COVID-19 の拡大予防の観点から、ボランティア活動に制限が生じた。園見学に関しては制限が解除されたため、学生に個別の声かけや情報提供を行ったことで、早期の園見学につながった。その結果、学生は複数の園を見学することができ、就職先をじっくり選定することができた。また、群馬県幼保認こ委員会が運営する「園マッチぐんま」の充実に伴い、そのサイトの求人情報を活用して就職活動に臨む学生も増えた。
- b 6～7月に新卒の卒業生の就職先に、「採用御礼」として保育学科の教員が訪問し、職場適応の状況把握や現場からの声、卒業生の声を聴く機会としている。その状況を踏まえて、在学生の指導及び就職支援に反映させている。
- c 卒業生支援の一環として、相談日を設ける予定であったが、COVID-19 感染予防の観点から実施ができなかった。しかし、個別で卒業後も相談に訪れる学生が多く、その都度丁寧に対応をしている。
- d 今年度は例年と比べても早期(8月中旬から)に就職活動が活発化し、10月前に内定を得る学生が多かった。その反面、早期から園見学を始め、ゆっくり吟味して採用試験に臨む学生も多く、全学生が内定を得るまでの時間がかかった。

② 課題と改善方策

- a 就職活動においては、社会的に介護福祉士・保育士が不足している状況にあるため、最終的な就職率はほぼ100%である。しかし、学生自身の能力や希望に沿った就職をするためには、より早期から就職活動を開始するよう促すと共に指導をする必要がある。そのためには、学生の資質や特性等に適した進路選択を早期から支援していく必要がある。
- b 退学率が低減し学生が学びを継続できるよう引き続き学習及び生活に関する指導が必要である。
- c 今年度も COVID-19 の影響を受け就職支援及び卒業生支援に制限が生じたものの、状況に応じてできることも増えた。次年度も状況を踏まえながら、可能な範囲をより広げながら実行する必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・前年度に比べて退学者数が若干増加したとのこと。減少傾向が途切れたことは残念であるが、引き続き、経済的な理由で学業をあきらめる学生が出ないように十分配慮されたい。
- ・社会的には介護福祉士も保育士も不足していることから、例年同様、就職率はほぼ100%とのこと。引き続き卒業生と就職先のミスマッチが生ずることのないように十分配慮した就職支援に努められたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動(ボランティア等)に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか等	④	3	2	1	

① 現状

- a COVID-19 が広がる中での学生の健康管理については、校長のリーダーシップのもと、全教職員が連携・協力して、玄関での学生の体調確認をはじめ様々な対策を講じている。
- b 急務である介護福祉士及び保育者の養成については、国、県、各種団体等による修学支援制度が多数整備されていることから、奨学金を必要とする学生に対しては、各種支援制度を紹介し、その申請手続きなどの支援を行っている。また、PAZ グループ独自の奨学金「PAZ 奨学金」(他制度との併用可・返済免除あり)が改めて整備され、介護福祉学科の在校生にも周知し、新たに支援を行っている。
なお、「高等教育修学支援新制度」の対象校に認定されている。
- c PAZ 祭(学園祭)は、COVID-19 感染の影響で、3年ぶりの実施かつ、初めての12月開催となった。感染状況が日々変化する中、開催時間や実施内容の検討を直前まで行った。その結果、外部の参加を可能にするため、飲食なしで午前中のみでの実施とした。外部への周知は、チラシの配布だけでなく、SNSを活用し、266名の方が来場した。卒業生も多数来校し、交流と卒業後のアフターケアの場にもなった。また、保護者面談を導入

し、本校の課題であった保護者との連携が図れた。

- d 2020年3月26日付けで関東信越厚生局長から国民年金の「学生納付特例法人」の指定を受けたことから学生の国民年金の申請等に対応している。年金講座も実施し、国民年金についての啓蒙も行っている。
- e 介護福祉学科では、卒業生支援として、資格の登録手続きの確認(新卒の方・5年経過措置対象の方)や介護ビザへの変更確認(新卒の留学生)を、本人と勤務先の施設に対して実施した。また、本校で開講している実習指導者講習会では、卒業生割引を導入し、卒業後にスキルアップをしやすい環境を整えた。

② 課題と改善方策

- a PAZ 祭(学園祭)については、感染症対策を含め、模擬店の実施可否等の検討が課題となる。現状の感染症対策を見直し、安全に安心してPAZ祭を開催できるよう検討していく必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・コロナ禍で発熱外来の初診料全額補助(留学生)、教科書代の全額補助(委託訓練生)、国民年金の窓口業務(「学生納付特例法人」の指定)、在留ビザ更新の電子申請、月2回の食糧支給、生理用品の無償配布など、毎年、学生の生活支援の充実に努めていることを高く評価したい。今後とも、学生支援の充実に努めてほしい。
- ・卒業生(留学生)から家族の来日に伴う相談、妊娠・出産に関する相談等も受けているとのこと。就職先の施設任せにすることなく、支援に取り組んでいることを高く評価したい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a COVID-19 禍での危機管理体制マニュアルを構築した。感染予防の取り組みの実際は、(5)学生支援の項に記載済みである。
- b オンライン授業のための環境整備(Webカメラの導入等)を引き続き行っている。
- c 9月、教職員の退職・採用等に伴う新年度の「防災体制」を確認すると共に、渋川市消防本部の指導の下、学生及び教職員を対象とした防災訓練を実施した。
- d 7月、渋川市消防本部の協力を得て、「地震体験車」等を使った災害対処訓練を実施した。特に、あまり地震が発生しない国からの留学生もいることから、極めて意義のある訓練になっている。
- e 学校と実習施設との関係は良好で、学生の指導に関する連携も図られている。海外研修については実施していない。
- f 2019年に設置したトレーニング用のジムコーナー(スペース)において、昨年度課題として挙げていた、利用者

のプライバシー確保かつ、COVID-19 に配慮するためのパーテーションを3台設置した。

② 課題と改善方策

- a 保育学科で所有しているノートパソコンを全学科で使用しているが、導入から6年が経過するため、次年度新規リースを組み、入替を検討している。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今年度も感染症対策に学校を上げて適切に取り組んできたことから、クラスター等の発生もなく、比較的平穩に推移したとのこと。評価したい。
- ・施設、備品の充実等の課題に対しては、引き続き、計画的に整備・改善に努められたい。

(7) 学生の受入募集

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 今年度は、COVID-19 感染予防対策を徹底し、例年通りの対面で10回のオープンキャンパスを実施し、その参加者は、延べ111人(介護56人、保育53人、専攻2人)であった。また、在校生とオープンキャンパス参加者との関わりを増やすことや、プログラム内容等に変化をつけることで、繰り返し参加してくださっている方にも配慮した内容とすることができた。
- b 遠方(主に県外)からの受験者の利便性向上とCOVID-19対策を図るため、一部の入学試験にオンライン面接を継続している。
- c 期間中、各種広報媒体(インターネット、新聞広告)を活用した広報・募集活動を積極的に実施している。
- d 昨年度まで郵送としていたオープンキャンパス参加者へのサンクスレターを各校へ持参する形とし、高校教員と面会する機会を増やすと共に、参加者の進路検討状況の情報共有の機会を増やすことを図った。
- e 委託訓練生の教科書代を無償にして費用負担を減らすことで、社会人が入学しやすい状況を整えることを継続している。
- f 委託訓練公募開始と共に、群馬県全域のハローワークを定期的に訪問し、広報活動を行った。また、近隣のハローワークが開催する委託訓練校説明会に参加し、さらには委託訓練について幅広く知ってもらえるよう県北を中心にチラシ折込や掲載媒体を増やすなどして広報に力を入れている。
- g 保育学科では、入学後の学生生活の不安や疑問に答えるため例年入学前指導を実施している。今年度もCOVID-19対策を講じた上で実施した。入学前の個別面談、ピアノの技術力を高めるための個別レッスンなどは、入学後の安定した学生生活や学習に繋げるための重要な指導の場になっている。また、今年もオープンキャンパス参加者を対象としたピアノレッスンを継続した。参加者個人のペースに合わせた指導が高評価であ

った。

- h 子育て支援センターとの連携授業や特色ある授業展開は、ホームページ・SNSなどで随時紹介している。
- i スマホ世代の高校生へのアプローチをこれまでより多く持てるよう、ホームページのリニューアル、SNSの更新頻度の向上に加え、定期的なメール配信を行うなど、昨年度より対応を強化した。
- j 本年度、専門学校単独での公開講座を7月に実施した。介護、保育共に多くの参加者に来ていただけたことで、地域貢献はもとより、学校を知っていただく広報活動の一環にもなった。
- k 学校広報、地域貢献、福祉の啓蒙などを目的に、介護福祉士養成施設協会と連携し、県内小、中学校を対象に、介護出張教室を行っている。本年度は子持中学校3年生を対象に実施した。また、小、中、高校や社会人を対象に、本校教員が出前授業を行うオープンレクチャーも行っている。本年度は、おおぞら高校高崎キャンパス1年生～3年生の希望者を対象に実施した。これらの活動をさらに多くの学校等へ周知し、活用していただけるよう、本年度11月、本校副校長が渋川市小中学校校長会議においてご案内申し上げた。
- l 群馬パース大学の学園祭(流星祭)において専門学校の説明ブースを設置した。また、医療介護専門職の職業紹介を行うグループ企業の株式会社サフランと連携し、高崎イオンにて出張相談会を開催することで、不特定多数の方々に学校を広報する機会を得た。
- m 学校の様々な活動について、上毛新聞と連携し、取材内容を掲載していただくことができている。
- n 9月に渋川市立北中学校の生徒が渋川市子育て支援総合センターで職場体験を行った。その際センターからの要請を受け、保育学科教員が対象生徒を本校に招いて、保育の仕事の内容や魅力・保育士養成校の学び等についてレクチャーし、施設見学を行った。渋川市内の生徒に本校を知ってもらうよい機会となった。
- o 渋川青翠高校の進路指導主事より、職場見学などCOVID-19の影響で、生徒が子どもと関わる機会が減っているという話を受け、遊びの広場「おひさま」等の場を検討しながら今後本校の保育学科と青翠高校とで連携をしていきたい旨を青翠高校へ提案した。具体的にどのような取り組みが可能か、引き続き検討を重ねていく。
- p 本年度も「ふるさと渋川奨励金」や「ベスト介護Japan」への学生の挑戦を通して、本校のPRを行うことができた。

② 課題と改善方策

少子化の影響も大きく、各科とも高校からの現役生入学者は減少傾向にある。少ない福祉系進学希望者を各養成校がそれぞれ獲得しようと努力しているが、各学校とも定員に満たない状況の中で、高校生に進学先として選ばれる魅力ある学校を目指す必要がある。また、高校生のみならず、社会人、外国人留学生、委託訓練生の募集方法なども工夫し、次のような改善策で募集に臨みたい。

- a 高校訪問を足繁く実施し、またオープンキャンパス案内チラシなどを活用して効果的に本校のことを知っていただけるように工夫していく。また、進路決定をする時期には、各科教員が高校訪問に同行する等継続して全体で協力、調整を行う。
- b 入学後、各科新1年生を対象に入学を決めたきっかけなどの意識調査(アンケート)を継続し、今後の学生募集、広報活動の参考としていく。
- c オープンキャンパスでは、体験授業を通してこれまで以上に学生と教員が共に授業を創り上げていく様子を伝えるようにする。また、在校生と、オープンキャンパス参加者との交流や意見交換の場を増やす工夫を行うこ

とで、学生の声を直に聴くことができる機会を増やす。

- d 各科の学生を対象に、高校生へ向けてのメッセージ動画を作成し、オープンキャンパスで活用する。
- e 学生募集における広報活動は多岐にわたるため、年間スケジュールを立て、月に一回担当者会議を開催し、動きの確認や情報の共有などを継続して行う。
- f 本年度行った、専門学校単独の公開講座について、来年度以降も地域貢献や学校広報を兼ねて開催することなどについて検討する。
- g オープンキャンパスのタイムスケジュールについて、参加者の不利益にならないような時間設定を検討し、実施する。また、本校学生と参加者との関わりを増やし、参加者が将来の自分を想像しやすい環境や、本校に好印象を抱いていただけるような内容の工夫も継続して実施していく。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・新年度から、保育学科及び介護福祉専攻科の学生募集を停止すること。これまで教職員が心を一つにして、また、創意工夫しながら学生募集に努めてきたことを思うと、非常に残念なことである。しかし、募集停止は致し方ないこととして、引き続き良好な教育環境の保持等には万全を期されたい。

(8) 財務

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	④	3	2	1	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 法人全体(大学、大学院、専門学校)の収容定員充足率が各年度 100%超で安定的に推移する中で、学生生徒等納付金が十分に確保されており、経常収支差額比率をはじめとする各種の財務比率も概ね良好で、財務基盤は安定している。
- b 予算の編成については、各部局毎(法人、大学、大学院、専門学校)に策定される次年度方針に基づき予算案が生まれ、3月開催の理事会・評議員会にて承認を受けている。また実際の予算執行時には起案書を作成・回覧し、改めて使用内容等の詳細について確認・検討を行うこととしている。
さらに半期実績等に基づく補正予算を適宜編成している。
- c 本法人の会計監査については、公認会計士による外部監査^{※1}、及び監事による学内監査^{※2}、から成っている。

※1 公認会計士による外部監査…加藤会計事務所による期中監査及び決算監査を受けている。監査契約書に定められている監査従事者の監査見積時間数は①監査責任者 50 時間、②公認会計士 90 時

間、③その他 80 時間…合計 220 時間となっている。

※2 監事による学内監査…「学校法人群馬パース大学 監事監査規程」に基づき作成された監査計画に沿った監査が行われている。2 名の監事は理事会及び評議員会への出席に加え、学校法人の管理運営を適正に行うため、理事会と教学間の意志疎通を図ることを目的として毎月 1 回開催される学園運営会議にも出席しており、学校法人の業務全般を状況把握した上で、期中・期末には決算等概要について、財務部及び公認会計士より概況聴取及び意見交換を実施している。

d 本法人の情報公開については、「学校法人群馬パース大学 情報公開規程」に則り、毎年度決算終了後、財務情報(財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書)及び監事による監査報告書をホームページ上に掲載するとともに、各事業所へ備え置き一般の閲覧に供している。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・学校法人の財務状況については、引き続き良好と認められる。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

① 現状

a 今年度も自己点検評価は、全教職員が分担して取り組んでいる。そして、評価項目ごとに成果や課題を検討し、次の課題を明確にするなど学校全体の質的向上に努めた。

なお、6 月に、学校のホームページを通じて 2021 年度「自己評価報告書」及び「学校関係者評価報告書」を公表した。

b 学生及び教職員の個人情報に関する情報漏えい事故等は発生していないが、引き続き「個人情報保護に関する規程」等に則り、その適正管理に努めている。

c 2020 年度から、非常勤講師に対して個人情報(特に学生に関する個人情報)の漏洩防止の徹底を図るために誓約書の提出を求めることとしているが、今年度も同様に継続実施した。

d 留学生の管理について、東京出入局在留管理局から「適正校」に選定(4 年連続 4 回目)された。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。引き続き法令等の遵守に努める。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・留学生の管理に関して、東京出入国在留管理局から4年連続で「適正校」に選定されていることは、高く評価できる。引き続き適正な管理と指導に努められたい。
- ・法令違反、ハラスメント、不適切な事案等はなかったとのこと。引き続き法令等の遵守に努められたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

① 現状

- 春季～秋季の毎月末、学校行事として実施している環境美化活動では、学校敷地内の清掃のみならず、学校周辺道路等の清掃も行っている。また日本たばこ産業(JT) 上信越支社との JR 渋川駅前・合同清掃活動『ひろえば街が好きになる運動』を、今年度は1回(10月)実施している。
- 渋川署との連携による、特殊詐欺被害防止・交通事故防止等を訴える啓発活動(注意喚起チラシやグッズの配布)を、JR 渋川駅前等で計2回実施している。
- 3月18日(土)に渋川市で実施された「共生社会実現に向けた講演会&討論会」へ学校長がパネリストとして参加した。
- 本校に届くボランティア募集等の情報は担当者が随時受付し、学生が自由に閲覧・申込できるよう掲示板への貼付と就職相談室への配架を実施している。また実習・就職実績がある施設等からの案件については、必要に応じて教員より学生へ個別に声掛けも行っている。
- 本校主催の来場型公開講座を7月に開催し、①保育 ②理学療法、の2分野で実施した。
 - 「今伝えたい 絵本からのメッセージ ～大切なことに気づくために～」
 - 「慢性の腰痛って良くなりますか? ～腰痛に対する からだとこころのコントロール法～」
- 介護福祉学科および介護福祉専攻科では、群馬県内の小中学生対象に「介護福祉出張教室(※)」を実施。依頼のあった学校へ本校教員が赴き、高齢者体験・車椅子体験等の講座を開催している。また福祉系高等学校の授業内で開講される介護職員初任者研修へ、本校教員を講師として派遣している。

(※)群馬県介護高齢課および群馬県介護福祉士養成校協議会が連携し、介護を正しく理解してもらうための企画の1つ。

- g (学外の)介護従事者向けスキルアップ研修(喀痰吸引等研修、実習指導者研修)や介護福祉士になるための基礎的な知識・技術を学ぶ研修(実務者研修)を開講している。喀痰吸引等研修では、本校以外で基本研修を修了した方でも、本校と委託契約をしている施設で実地研修ができるようフォローアップコースを新設した。
- h 保育学科では、群馬県総合教育センター・幼児教育センター事業の「保育アドバイザー」に委嘱された本校教員が、幼児教育等に携わる方を対象とした各種研修会等に講師として派遣されている。また「幼稚園等新規採用教育研修指導員」に委嘱された本校教員が、直接園に赴いて指導に当たっている。
- i 保育学科では、群馬県社会福祉協議会からの依頼を受け、県内の保育士を対象とした「群馬県教育・保育のキャリアアップ研修」の講師に本校教員3名を派遣している。本年度もe-ラーニングとして実施した。
- j 群馬県の公共職業訓練(ハورتレーニング)・受託校として、①介護福祉士コース ②介護福祉士専攻コース ③保育士コースを開講し、今年度はそれぞれ①8名 ②0名 ③3名の訓練生を受け入れている。
- k 将来渋川市のために貢献しようとする有意な人材の大学等への進学を奨励・支援することを目的とした「ふるさと渋川学生奨励金」制度へ本校の学生2名が応募し、2名とも選考されている。
- l 介護福祉職の仕事のやりがいを発信しイメージ向上を図るため、日本介護福祉魅力研究会が介護の日(11月11日)に合わせて開催した「第1回ベスト介護 JAPAN・学生の部」にて、本校の学生が出場し優勝している。

*本校の教職員及び学生による、その他の社会貢献・地域貢献については、別添資料4「2022年度 主な地域貢献活動一覧」を参照のこと。

② 課題と改善方策

引き続き積極的に社会貢献・地域貢献活動に取り組んでいきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・今年度から学校独自で「公開講座」を開催したとのこと。高く評価したい。今後も、地域のニーズ・要望等に応えるテーマ、課題で公開講座の開催に努められたい。
- ・環境美化活動では、校内敷地内及び学校周辺の清掃のみならず、毎年(年2回)、JR 渋川駅周辺の清掃活動を行っている。また、その際、地元警察署と連携して防犯及び交通事故防止等を訴える広報啓発活動を行っていることは、高く評価したい。このような実績を対外的に広くアピールしていくことも必要であろう。
- ・「地域連携活動一覧表」に記載されているような社会貢献活動は、コロナ以前に比べると減少しているとのこと。しかし、それは致し方ないところである。引き続き社会貢献・地域貢献には、積極的に取り組まれない。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等 がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整 備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 本年度で留学生の受入れは6年目を迎えるが、一定程度の留学生を確保するために、県内・県外の日本語学校(複数校)に赴き、本校の学習内容や介護業務に対する理解を深め齟齬をなくすための説明会を実施した。しかしながら、COVID-19 のため県外の日本語学校での説明会の実施が計画通りできなかったことから、前年度から引き続き「オンライン説明会」を実施し、県内の留学生には本校で個別に説明会を随時行った。在学中の留学生がそれぞれの母国語で学校説明を行った動画を活用し、募集活動に役立てた。
- b COVID-19 流行により、前年度同様、県外の学生や要望があった学生については、「オンライン入試(面接)」も実施している。日本語能力だけでなく、日本語学校での出席率、人物、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断した入試選考を引き続き行っている。
- c 専門家(弁護士、行政書士など)に相談できる「ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター」を紹介し繋げている。
- d 日本年金機構と「学生納付特例申請」の代行事務契約を結び、留学生の年金手続きを一括で行っている。また、学生向けに日本の年金制度の仕組みについて渋川年金事務所による説明会を開催し、齟齬が起きないように指導している。その取組みが厚生労働省関東信越厚生局から認められた。
- e 日本語学校に『学生納付特例事務法人の指定』の検討を依頼する文書に、本校の名前と写真が掲載された。
- f COVID-19 の世界的な流行により、留学生が一時帰国する際には、学校内でヒアリングを行った後、アルバイト先に状況を伝え、留学生・学校・アルバイト先の情報共有を行った。帰国に関しての問題点を明らかにすると共に、齟齬がないよう努めている。
- g SDG's のフードロス・貧困対策の点から、本年度から本校が渋川フードバンクや教職員、協力者から食料品や衣料品・生活雑貨を一括預かり、留学生や生活に困窮している学生へ毎月配布を行っている。

② 課題と改善方策

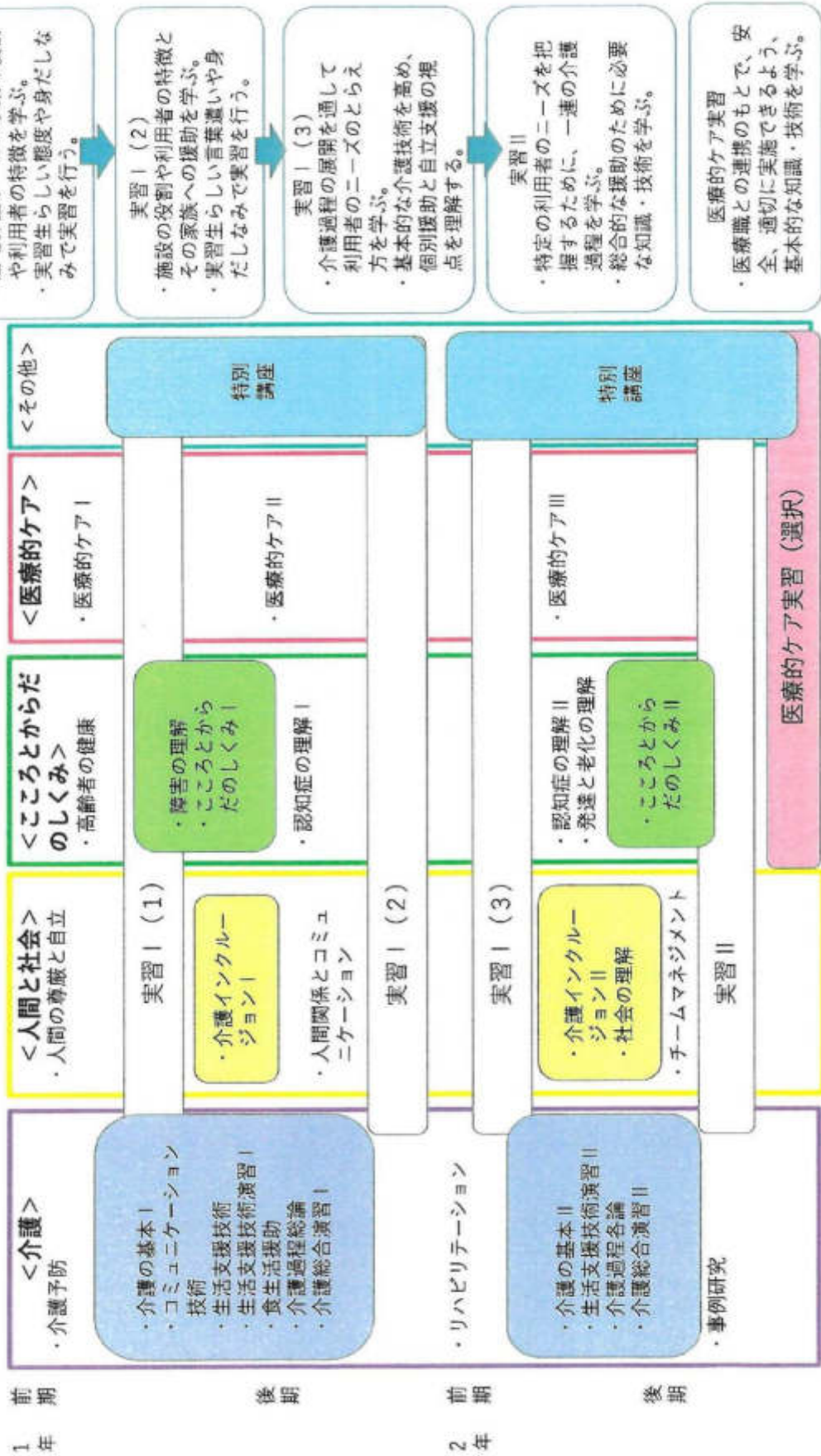
- a 留学生は、日本語学校を卒業後本校に入学しているが、語学力で個人差があることや専門用語について理解が十分でない学生もいる。しかしながら、日本語指導の時間を確保することも時間割的に難しく、現在は十分に実施が出来ていない。今後は、在学時に個々の目標の日本語能力試験合格を目指し、専任教員を中心にしっかりとサポートしていきたい。

③特記事項

本校では、外国人留学生の受け入れを始めるに当たり、「群馬パース大学福祉専門学校外国人留学生規程」(平成 27 年 4 月 1 日施行)を設定し、必要な事項を定めている。

資料 1

令和3年度 介護福祉学科カリキュラムマップ



実習 I (1)

- 居宅介護サービス事業の役割や利用者の特徴を学ぶ。
- 実習生らしい態度や身だしなみで実習を行う。

実習 I (2)

- 施設の役割や利用者の特徴とその家族への援助を学ぶ。
- 実習生らしい言葉遣いや身だしなみで実習を行う。

実習 I (3)

- 介護過程の展開を通して利用者のニーズのとらえ方を学ぶ。
- 基本的な介護技術を高め、個別援助と自立支援の視点を理解する。

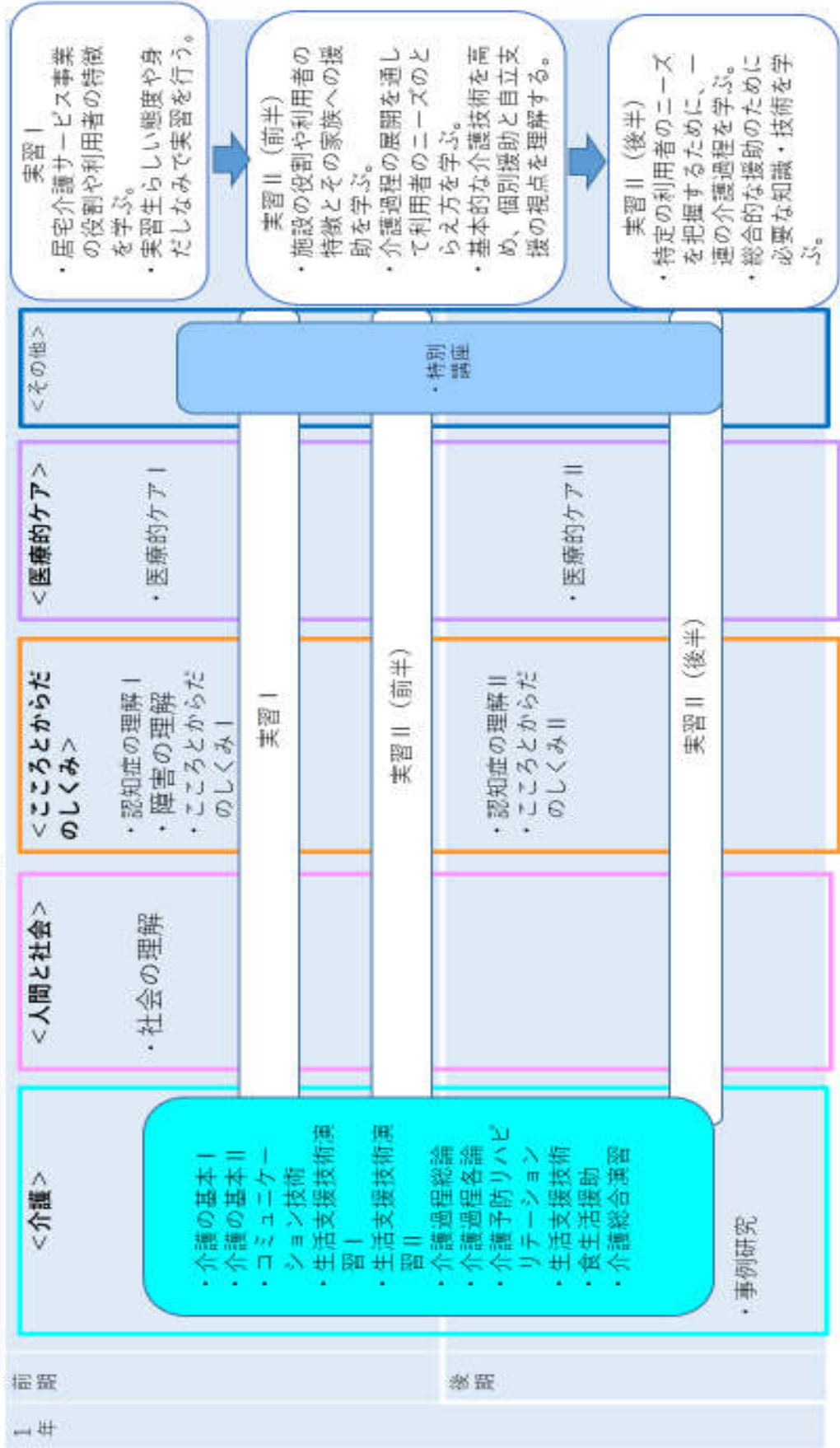
実習 II

- 特定の利用者のニーズを把握するために、一連の介護過程を学ぶ。
- 総合的な援助のために必要な知識・技術を学ぶ。

医療的ケア実習

- 医療職との連携のもとで、安全、適切に実施できるよう、基本的な知識・技術を学ぶ。

介護福祉専攻科カリキュラムマップ



保育学科カリキュラムマップ

	小田原短大		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	総合演習	教養科目	その他	実習指導		実習			
	小田原	PAZとの共修							PAZ	小田原	PAZ	小田原		
1年	前期	健康 人間関係 表現(音楽) 教育概論論	保育原理 社会福祉 社会的養護Ⅰ	保育の心理学 子どもの保健	保育内容健康 保育内容人間関係 音楽表現と遊びⅠ 言語表現と遊び 乳児保育Ⅰ 子どもの健康と安全 障がい児保育Ⅰ 保育のためのピア学習Ⅰ		保育の英語Ⅰ		保育実習指導Ⅰ(施設)	保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅰ(施設)	PAZ	小田原	
	過 年	環境 情報処理論	保育原理 社会福祉 社会的養護Ⅰ	子どもの理解と援助	保育内容健康 身体表現と遊び 保育・子育て支援演習Ⅰ 実践演習自然と食Ⅰ			特別講座Ⅰ		保育実習指導Ⅰ(施設)	保育実習指導Ⅰ(保育所)	保育実習指導Ⅰ(施設)		教育実習
2年	前期	幼児理解の理論と方法 教育相談	教育原理 子ども発達福祉 保育者論	子どもの身と栄養Ⅰ 実践演習こどもの遊戯Ⅰ	保育の計画と評価 保育内容総論 乳児保育Ⅱ 社会的養護Ⅱ 保育資料研究Ⅱ 保育のためのピア学習Ⅱ		保育の英語Ⅱ 保育キャリアデザインⅠ 日本国憲法		保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅱ		保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	教育実習(後期)
	過 年		子ども家庭支援論	子ども発達支援の心理学 子どもの身と栄養Ⅰ 子どもの遊戯Ⅱ 保育者論	保育・子育て支援演習Ⅱ 実践演習自然と食Ⅱ 障がい児保育Ⅱ 子育て支援 保育のためのピア学習Ⅲ	保育実践演習		特別講座Ⅱ						
	後 期		子ども家庭支援論 保育カリキュラム論 保育内容総論 乳児保育Ⅱ 健康指導法	子ども家庭支援論 子ども支援 表現指導法 人間関係指導法										

学校関係者評価委員名簿

	氏名	役職	所属	分類
1	塩崎 猛雄	委員長	群馬パース大学福祉専門学校 非常勤講師	教育に関し知見を 有する者
2	笛木 陽介	副委員長	社会福祉法人パースの森 ヴィラージュ尾瀬 施設長	関連業界等関係者 (介護)
3	長塩 香子	委員	渋川市立渋川幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
4	河田 功一	委員	社会福祉法人永光会 特別養護老人ホーム永光荘事務長	関連業界等関係者 (介護)
5	蜂須賀 和夫	委員	幼保連携型認定こども園 国分寺幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
6	飯塚 翔	委員	医療法人社団ほたか会 群馬パース病院 介護主任	卒業生 (同窓会長)

2022年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
1	保育学科	小林由井子	5月9日	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
2	保育学科	剣持佐智子	5月9日	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おたこども園
3	保育学科	剣持佐智子	5月18日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
4	保育学科	都丸千寿子	5月20日	金	講師派遣	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	幼稚園・こども園等新規採用教員156名	群馬県総合教育センター・オンライン
5	保育学科	井上 暁子	5月23日	火	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回(eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
6	保育学科	小林由井子	5月30日	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回(eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
7	保育学科	剣持佐智子	5月30日	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県社会福祉協議会	群馬県社会福祉協議会	保育士200名×2回(eラーニング)	群馬県社会福祉総合センター
8	保育学科	剣持佐智子	6月1日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おたこども園
9	保育学科	小林由井子	6月10日	金	学校評議委員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員5名園長・主任他	こもち幼稚園
10	介護福祉科	高草木めぐ美	6月14日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	青翠高校3年生	青翠高校	高校3年生:18名	青翠高校
11	保育学科	小林由井子	6月23日	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
12	保育学科	都丸千寿子	6月28日	火	学校評議委員会	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名園長・主任他	北橋幼稚園
13	保育学科	剣持佐智子	6月29日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
14	保育学科	剣持佐智子	7月6日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おたこども園
15	校長	校長	7月8日	金	審議会委員活動	群馬県青少年健全育成審議会	群馬県	児童福祉・青少年課		群馬県庁

2022年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
16	保育学科	都丸千寿子	7月8日	金	講師派遣	榛東村人権教育研修会事前指導(園内研修)	榛東南部こども園教職員	榛東南部こども園	こども園職員15名	榛東南部こども園
17	保育学科	小林由井子	7月13日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
18	保育学科	剣持佐智子	7月13日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
19	保育学科	都丸千寿子	8月2日	火	講師派遣	東毛地区園長会研修会	東毛地区幼稚園・保育園・こども園の園長・行政関係者	向井千秋子ども記念科学館	園長等18名	向井千秋子ども記念科学館
20	校長	校長	8月9日	火	評価委員活動	ぐんまこどもの国児童館指定管理者評価委員会	群馬県	私学・子育て支援課		こどもの国
21	保育学科	都丸千寿子	8月24日	水	講師派遣	高崎健康福祉大学附属幼稚園研修会	園教職員	健大附属幼稚園	教職員20名	健大附属幼稚園
22	保育学科	井上暁子	8月23日	火	講師派遣	渋川市ファミリーサポートセンター24時間研修	しぶかわファミリーサポートセンター	しぶかわファミリーサポートセンター	まかせて会員12名	渋川市子育て支援総合センター
23	保育学科	小林由井子	8月31日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
24	保育学科	剣持佐智子	9月5日	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
25	保育学科	都丸千寿子	9月6日	火	講師派遣	前橋市保幼小連絡協議会研修会	小学校及び幼児教育関係者	前橋市立元総社小学校	小学校及び幼児教育関係者12名	前橋市立元総社小学校
26	保育学科	剣持佐智子	9月7日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おおたこども園
27	保育学科	小林由井子	9月8日	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
28	保育学科	剣持佐智子	9月13日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おおたこども園
29	保育学科	都丸千寿子	9月15日	木	講師派遣	榛東村人権教育研修会事前指導(園内研修)	榛東南部こども園教職員	榛東南部こども園	こども園職員15名	榛東南部こども園
30	保育学科	剣持佐智子	9月21日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園

2022年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
31	保育学科	都丸千寿子	9月22日	木	講師派遣	園内研修	富岡市むつぎ幼稚園 教職員	富岡市むつぎ幼 稚園	園教職員25名	富岡市むつぎ幼 稚園
32	保育学科	小林由井子	10月12日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
33	保育学科	剣持佐智子	10月12日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	東吾妻町立おた たこども園
34	保育学科	都丸千寿子	10月17日	月	講師派遣	園内研修	渋川市立こもち幼 稚園	渋川市立こもち 幼稚園	園教職員8名	渋川市立こもち 幼稚園
35	保育学科	都丸千寿子	10月21日	金	講師派遣	保護者講演会	沼田立薄根幼稚園	沼田立薄根幼 稚園	保護者10名	沼田立薄根幼 稚園
36	介護福祉科	千田・古川・戸丸・魚屋・曾我	10月21日	金	講師派遣	介護出張教室:高齢者体験	子持中学校3年生	介養協 子持中学校	中学3年生:94名	子持中学校
37	保育学科	剣持佐智子	10月26日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかう えこども園
38	保育学科	剣持佐智子	11月2日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	東吾妻町立おた たこども園
39	介護福祉科	千田・黛	11月7日	月	講師派遣	オープンレクチャー	おおぞら高校高崎 キャンパス 1~3年 希望者	おおぞら高校高 崎キャンパス	学生:9名	おおぞら高校高崎キャンパス
40	保育学科	小林由井子	11月9日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
41	保育学科	都丸千寿子	11月10日	木	学校評議委員会	学校評議委員会	渋川市立北橋幼 稚園 学校評議員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名園長・主 任他
42	介護福祉科	深澤みはる	11月15日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	青翠高校3年生	青翠高校	高校3年生:18名	青翠高校
43	介護福祉科	深澤みはる	11月16日	水	講師派遣	介護職員初任者研修	青翠高校3年生	青翠高校	高校3年生:18名	青翠高校
44	保育学科	剣持佐智子	11月16日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育 センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかう えこども園
45	保育学科	都丸千寿子	11月18日	金	講師派遣	人権教育研修会	保育教育関係者 地域関係者	榛東村教育委員 会	保育教育関係者 地域関係者60名	榛東南部コミュニ ティーセンター

2022年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
46	介護福祉科	深澤みはる	11月29日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	青翠高校3年生	青翠高校	高校3年生:18名	青翠高校
47	介護福祉科	深澤みはる	11月30日	水	講師派遣	介護職員初任者研修	青翠高校3年生	青翠高校	高校3年生:18名	青翠高校
48	保育学科	小林由井子	12月2日	金	学校評議委員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議委員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員5名園長・主任他	こもち幼稚園
49	保育学科	小林由井子	12月7日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
50	保育学科	剣持佐智子	12月7日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おおたこども園
51	保育学科	剣持佐智子	12月14日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
52	保育学科	都丸千寿子	12月15日	木	講師派遣	前橋市保幼小連絡協議会研修会	小学校及び幼児教育関係者	前橋市幼児教育センター	小学校及び幼児教育関係者 10名	前橋市立東保育所
53	保育学科	剣持佐智子	1月17日	火	講師派遣	渋川市公立保育所研修会①	渋川市立保育所職員	渋川市第五保育所	保育士等24名	渋川市第五保育所
54	保育学科	剣持佐智子	1月20日	金	講師派遣	渋川市公立保育所研修会②	渋川市立保育所職員	渋川市第五保育所	保育士等25名	渋川市第五保育所
55	保育学科	小林由井子	1月24日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園
56	保育学科	剣持佐智子	1月26日	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おおたこども園
57	保育学科	都丸千寿子	1月27日	金	講師派遣	保護者講演会	渋川市立赤城幼稚園	渋川市立赤城幼稚園	保護者26名	渋川市立赤城幼稚園
58	保育学科	都丸千寿子	1月27日	金	講師派遣	太田市保幼小連絡協議会	太田市保幼小の教職員	太田市子ども課	保育教育関係者 110名	尾島生涯学習センター
59	保育学科	剣持佐智子	1月30日	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
60	保育学科	小林由井子	2月7日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	前橋市幼児教育センター	新任教諭対象	中之条幼稚園

2022年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
61	保育学科	都丸千寿子	2月8日	水	学校評議委員会	学校評議委員会	渋川市立北橋幼稚園 学校評議委員会	北橋幼稚園	北橋幼稚園	委員5名園長・主任他
62	保育学科	剣持佐智子	2月13日	月	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立おおたこども園
63	保育学科	都丸千寿子	2月15日	水	講師派遣	群馬県幼稚園等中堅教諭資質向上研修	在職10～13年目の幼稚園等の教員	群馬県総合教育センター	幼稚園教員12名	群馬県総合教育センター・オンライン
64	保育学科	剣持佐智子	2月16日	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	東吾妻町立さかうえこども園
65	保育学科	小林由井子	2月27日	月	学校評議委員会	渋川市立こもち幼稚園学校評議委員会	こもち幼稚園	こもち幼稚園	委員5名園長・主任他	こもち幼稚園
66	校長	校長	3月18日	土	討論会	渋川市共生社会実現に向けた講演会・討論会	市民	市役所		金島公民館